

医学教育分野別評価  
山口大学医学部医学科  
年次報告書  
令和7年度



# 医学教育分野別評価 山口大学医学部医学科 年次報告書 令和7年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度  
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.31  
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和2年8月1日より7年間の認定期間が開始した。

令和6年度は、改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムの適用が開始となった。また、概ねコロナ禍前の状況に復し、全ての講義・実習が元の状況に復したことで、これまで以上に医学教育プログラムについて、FD や教育プログラム評価委員会、カリキュラム委員会等の活動機会を数多く設けることができた。また医学科の使命の策定や3つのポリシーの改訂など、教育体制の基盤となる事項を大きく前進させることができた。

令和4年度改訂版の医学教育モデル・コア・カリキュラムが令和6年度から適用され、改訂モデル・コア・カリキュラムで示されている「医師として求められる基本的な能力」の対応状況を確認しつつ、授業やユニットの見直しを引き続き進めた。また、主要な診療科における実習期間確保のための実習ローテーションの再編や評価方法など診療参加型臨床実習の充実化のための検討を継続的に行った。最終的に、卒業時には全ての「医師として求められる基本的な能力」が身に付くカリキュラムを構築し、学修成果基盤型教育を更に推進する予定である。また、カリキュラムを構築する過程で、教育の主役である学生や外部有識者に意見を聞きカリキュラムに反映させる予定である。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえ、令和7年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和6年4月1日～令和7年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略した。

## 1. 使命と学修成果

領域1における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学科アドミッション・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシー、附属病院の臨床研修の目標に加え、大学院医学系研究科医学専攻のディプロマ・ポリシーも含めた、「山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型(アウトカムベースド)教育の推進」を可視化し、「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」(以下、eYUME)で広く周知を行っている。

医学科の使命をより明確に示すために、3つのポリシーの見直しが必要であり、まずは山口大学全体で3つのポリシーの見直しが行われ全学アドミッション・ポリシーが策定された。それに準拠する形で医学科アドミッション・ポリシーを策定した。

令和6年度は、全学の進捗に合わせ、医学科でもカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーの改訂を行った。改訂にあたっては、令和4年度版医学教育モデル・コア・カリキュラムや、附属病院の初期臨床研修目標とシームレスにつながるようし、医学科教学委員会および医学科カリキュラム委員会、医学科会議等での審議を経て承認された。

また、「医学科の使命についてより明確に示すべきである」との助言を踏まえ、山口大学憲章や医学科の教育理念・目標に基づき、果たすべき社会的役割や責任として「医学科の使命」を新たに策定し、学生や学部有識者も含めた委員会等での審議を経て承認された。

令和7年度より、これら新たな使命、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを様々な場やHP等の媒体を通じて明示し、学内外に周知していく方針である。

### 1.1 使命

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点(特色)

・山口大学の理念、医学部医学科の理念・目的と目標、ミッションの再定義(医学系分野)強みや特色などの役割、およびディプロマ・ポリシーを含む3つのポリシーを「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を用いて広く示している。

#### 改善のための助言

・山口大学の理念、医学部医学科の理念・目的と目標、ミッションの再定義(医学系分野)強みや特色などの役割、および3つのポリシーの相互の関係を整理し、医学部の使命についてより明確に示すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学科アドミッション・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシー、附属病院の臨床研修の目標に加え、大学院医学系研究科医学専攻のディプロマ・ポリシーも含めた、「山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型(アウトカムベースド)教育の推進」を可視化し、eYUMEで広く周知を行っている。

・令和6年度に、山口大学教学マネジメント室が中心となって、3つのポリシーの見直しが行われた。これに準拠する形で医学科でも3つのポリシーについて一部改訂を行った。医学科ディプロマ・ポリシーの策定にあたっては、医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版、令和6年度から運用開始)や、附属病院の初期臨床研修目標との整合性についても確認した。また本学ディプロマ・ポリシーと医学科ディプロマ・ポリシーの関連性についても整理した。以上より、医学専門領域の教育とともに、総合大学における一学科としての教育カリキュラムの観点からも役割を明確に示している。

・医学科の使命を作成し、令和6年度医学科カリキュラム委員会や医学科会議での審議を経て承認された。

・卒前教育と卒後研修の連携したシームレスな一貫教育を行い、アドミッション・ポリシーで定めた「山口県をはじめとした地域医療に貢献する人材」を育成すると同時に、「国際的視野を持った人材」も育成し評価することが今後の課題といえる。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 1-1-1: 山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型教育(アウトカムベースド)教育の推進

- ・資料 1-1-2:山口大学医学部医学科アドミッション・ポリシー(令和6年度改訂版)
- ・資料 1-1-3:山口大学医学部医学科カリキュラム・ポリシー(令和6年度改訂版)
- ・資料 1-1-4:山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー(令和6年度改訂版)
- ・資料 1-1-5:医学科使命

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

・なし

#### **改善のための示唆**

・使命に国際的健康、医療の観点をより明確に示すことが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・令和6年度に改訂したディプロマ・ポリシーにおいて、国際的健康、医療の観点について記載している。
- ・令和6年度に作成し承認された「医学科の使命」の中で、国際的健康、健康の観点を明確に示している。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 1-1-4:山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー(令和6年度改訂版)《再掲》
- ・資料 1-1-5:医学科使命《再掲》

## **1.2 大学の自律性および教育・研究の自由**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

・なし

#### **改善のための助言**

・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

#### **改善状況を示す根拠資料**

・なし

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

・なし

#### **改善のための示唆**

・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

#### **改善状況を示す根拠資料**

・なし

## 1.3 学修成果

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための助言

・学生が達成を示せるよう、学修成果/コンピテンシーを具体的に策定すべきである。  
学修成果については、教育ユニットの個々の目標の集合のみでなく、6年間を通してその達成度が段階的に測定できるように設定すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・全国医学部長病院長会議が示す「医学教育モデル・コア・コンピテンシー（2017年5月26日）」において、「マイルストーンは別途作成中」とある。医学科ディプロマ・ポリシーは、このモデル・コア・コンピテンシーを参考に作成しており、学修成果/コンピテンシーの具体化や段階設定（マイルストーン）の策定においても、上記会議が提示するマイルストーンの詳細が待たれていた。  
しかし、それ以後の進捗が提示されないため、本学で独自に令和4年度版医学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性を考えたマイルストーンを作成した。  
・令和6年度、このマイルストーンについて、令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学ディプロマ・ポリシー及び医学科ディプロマ・ポリシーの改訂に準拠した修正を行った上で、医学科教学委員会や医学科カリキュラム委員会での審議を経て、医学科会議で決定した。令和7年度より運用を開始し eYUME 掲載等による周知を行う。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-1-4: 山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー（令和6年度改訂版）《再掲》
- ・資料 1-3-1: マイルストーン（令和7年度改訂版）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための示唆

・卒業時、医学研究および国際保健に関する学修成果について、教育ユニットの個々の目標の集合のみでなく、6年間を通してその達成度が段階的に測定できるように設定することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・上述のとおり、6年間を通して達成度が段階的に測定できるマイルストーンを作成し、令和6年度に審議・承認を得たことで、令和7年度からの運用を開始した。マイルストーンに示している段階的な学修目標を参考にユニットや授業を構成し、到達度評価を行うよう、各医学専門群を構成するユニットに内容を周知していく。  
・学生の行動規範を策定し、令和6年度に医学科教学委員会、医学科カリキュラム委員会、医学科会議での承認を経て、令和7年度医学科学生要覧に掲載し学生に周知している。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-1-4: 山口大学ディプロマ・ポリシー（令和6年度改訂版）《再掲》
- ・資料 1-3-1: マイルストーン（令和7年度改訂版）《再掲》
- ・資料 3-1-6: 学生の行動規範

## 1.4 使命と成果策定への参画

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための助言

・使命と目標とする学修成果の策定には、学生を含めた教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和6年度の3つのポリシーやマイルストーンの改訂にあたっては、学生・教職員にパブリックコメントの場を設け広く意見を求めた上で、医学部学生自治会会長、副会長、各学年総代等の学生委員や外部有識者を含めた医学科カリキュラム委員会で協議を行った。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 2-7-1: 医学科カリキュラム委員会 委員構成（役職のみ。氏名は非公開）

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための示唆

・使命と目標とする学修成果の策定には、他の医療職、患者、公共の代表者など、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和6年度の3つのポリシーやマイルストーンの改訂にあたっては、「医学科長が認めた広い範囲の教育の関係者及び外部の専門家」を委員とする医学科カリキュラム委員会で協議を行った。委員の委嘱にあたっては、他の医療職、患者、公共の代表者など、より広い範囲の教育の関係者から選出し、議論を行った。また会議はWeb会議システムを用いて行い、各委員の都合に柔軟に対応して参加できるよう配慮し、議長より各委員に積極的な発言を促し、多方面からの意見の聴取に努めて議事の進行が行われた。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 1-4-1: 令和6年度医学部医学科カリキュラム委員会議事要旨

## 2. 教育プログラム

領域2における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、重要な診療科の臨床実習期間の確保について、臨床実習プログラムの改訂に向けた検討を医学科会議、医学科教学委員会や医学科カリキュラム委員会、実習担当者説明会等で協議している。令和6年度中に各委員会・説明会で概ねコンセンサスが得られており、令和7年度中に実習プログラムの改訂を完了し、同年度開始の「臨床実習1」より実施予定である。また、早期臨床体験実習(early exposure)の充実化として、令和4年度に、「早期外科体験実習」を正規カリキュラムに組み込み、内容の充実化を続け、令和6年度も継続実施した。同実習では、基盤系教員と臨床系教員が共同で学生指導に当たっており、垂直的統合教育の実現も可能にしている。

今後は、医学科教学委員会や医学科カリキュラム委員会で十分に検討を行い、関係部署のコンセンサスを得ながら計画的に他ユニットの水平統合、垂直統合を推進していく。

### 2.1 プログラムの構成

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

##### 改善状況を示す根拠資料

・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

##### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 2.2 科学的方法

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・「Open Science Club」、「自己開発コース」、「修学論文テュートリアル」、「高度学術医育成コース(SCEA/AMRA)」などにより、低学年から継続して研究マインドを涵養し、研究を行う機会が提供されていることは高く評価できる。

**改善のための助言**

・なし

**関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

**改善状況を示す根拠資料**

・なし

**質的向上のための水準**

**特記すべき良い点（特色）**

・なし

**改善のための示唆**

・なし

**関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

**改善状況を示す根拠資料**

・なし

**2.3 基礎医学**

**基本的水準**

**特記すべき良い点（特色）**

・なし

**改善のための助言**

・なし

**関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

**改善状況を示す根拠資料**

・なし

**質的向上のための水準**

**特記すべき良い点（特色）**

・人工知能(医用 AI)について繰り返し教育されていることは評価できる。

**改善のための示唆**

・なし

**関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

### 改善状況を示す根拠資料

・なし

## 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・1年次から6年次までを通じて行動科学の教育が体系的に行われている。

#### 改善のための助言

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・人工知能(医用 AI)についての教育が、カリキュラムに取り入れられていることは評価できる。  
病気とケア、生と死についての社会・文化的側面、医療環境の変化について、医療人類学のユニットで教育が行われている。

#### 改善のための示唆

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

### 改善状況を示す根拠資料

・なし

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・2週間ごとに全診療科を回る「臨床実習1」と6週間ごとの4診療科での「臨床実習2」の両プログラムにおいて、屋根瓦形式によって診療参加型臨床実習が行われていることは評価できる。  
指導医の監督のもとに安全を確保して、積極的に医行為の教育が行われていることも評価できる。臨床実習ログブックを用いた形成的評価がなされている。  
「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を用いたアンプロフェッショナルな学生への組織的な対応がされている。

#### 改善のための助言

・全学生に対し、重要な診療科の実習期間をさらに確保すべきである。地域医療および高齢者医療の教育をさらに充実させるべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・主に基礎医学を学ぶ学年である2年次の学生を対象に、早期から臨床手技への関心を高め、技能を習得させることを目的とした「早期外科体験実習」を、正規カリキュラムに必修単位として組み込んでいる。外科系全診療科が参加し、結紮・縫合・剥離操作といった基本的な手技の指導にあたった。また、深刻化する外科医師不足の解消につなげるため、実習中、外科系診療科の紹介や手術動画の供覧を行うなど、内容の充実化を図った。さらに、ベーシックな外科手技を、将来あらゆる診療科でも応用実践できるよう、習得した手技の評価のため、試験を実施した。

・卒後臨床研修および卒前臨床実習で重複して数多くの研修医および医学生が特定の診療科に集中することは、指導医への負担や診療科における病棟・外来の業務管理・安全管理においても影響が大きく、可能な範囲でこの評価基準に対応できるよう検討を続けてきた。今般、令和4年度改訂版「モデル・コア・カリキュラム」および「診療参加型臨床実習実施ガイドライン」で、原則1診療科当たり連続3週間以上の実習が望ましいと示された診療科が定義されたことを踏まえ、主要な診療科の実習期間を更に確保すべく、「臨床実習1」における主要な診療科での実習期間延長や「臨床実習2(臨床実習2(クリニカル・クラークシップ))」における選択必修化などの素案を医学科教学委員会や医学科会議に提示し、臨床実習プログラムの改訂に向けた検討を行うとともに、改訂の意義と必要性について、臨床系講座や学生への周知を行ってきた。令和6年度は具体的に「臨床実習1」のプログラム改正について医学教育センターを中心に素案を作成し、医学科教学委員会、医学科会議や医学科カリキュラム委員会にて審議を行い、内容について概ねコンセンサスを得た。令和7年中に具体的なプログラムを確定し、令和8年1月の実習から運用を開始する予定である。

・県医師会と協力し行っている低年次からのインターンシップ体験実習の参加募集については、コロナ禍で中止していたが令和5年度に再開し、6名、令和6年度は5名の参加があった。令和6年度も、感染対策に十分配慮の上、「地域医療実習(6年次)」を実施した。また、山口県立総合医療センター主催の県内各地の医療機関で短期実習を行う「やまぐち地域医療セミナー」が開催され、令和6年度は21名の学生が参加をした。加えて、現場の医師を講師とした地域医療セミナーを実施することで、地域医療に関する知識と理解を得る場を充実させた。

・新型コロナウイルス感染症の指定感染症の取り扱いが解除されたものの、病院や医療・介護施設における感染対策は依然厳しい取り扱いを余儀なくされたため、1年次の高齢者施設体験実習は令和5年度まで中止となっていた。令和6年度は感染状況を慎重に確認し、マスク・ガウン等の十分な感染対策を講じて再開した。施設における学生の実習状況について、チェックリスト形式でデータ化し、高齢者や多職種とのコミュニケーションや、介護等での患者との接触、プロフェッショナルリズムに関する学修機会が確保されていることが示された。

・「臨床倫理テュートリアル」や「行動医学テュートリアル」では、社会情勢や制度の変化に合わせて高齢者医療や終末期医療に関するグループワーク課題を盛り込み、主体的な学修を促進している。

・臨床実習におけるログブックについて、学生及び教員の記載状況を経年的にまとめ学内委員会で報告しており、データをもとに指導医評価の充実化を促進するなど、学生の実習記録と教員からのフィードバックの質を担保している。

・地域医療推進教育および多職種連携教育の実践として、宇部市・山陽小野田市近郊にあり互いに往来や交流が盛んな2大学3学科4専攻(山口大学医学部医学科、保健学科、山口東京理科大学薬学部薬学科)が共同で行う合同講義・実習を実施した。令和4年度はワーキンググループを立ち上げ合同講義の実現に向けて検討を重ねた。令和5年度は第一段階として2大学3学科学生による交流会を6月25日に開催し、次年度からの本格実施に向け両大学の連携を図った。令和6年度から正式に全学生が参加し、4月から5月にかけて実施され、各領域の講義および多学科混成のグループワークなどで更なる多職種連携教育を推進している。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-5-1: eYUME 早期外科体験実習のユニット概要
- ・資料 2-5-2: 「やまぐち地域医療セミナー 2024」開催のご案内
- ・資料 2-5-3: 令和6年度 地域医療セミナーの概要
- ・資料 2-5-4: 令和6年度 高齢者施設体験実習講義の概要
- ・資料 2-5-5: 令和6年度 医療環境論(4学科合同) 授業概要
- ・資料 2-5-6: 令和6年度 医学生のための短期見学研修事業

- ・資料 2-5-7:令和6年度 臨床実習ログブック運用状況
- ・資料 2-5-8:高齢者施設体験実習におけるプロフェッショナリズムに関する学修状況

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・人工知能(医用 AI)についての教育がカリキュラムに取り入れられていることは評価できる。

### 改善のための示唆

- ・低学年から段階的に患者と接触し、病歴聴取、身体診察などを行う機会を設けることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生が病歴聴取や身体診察等の医行為を患者に行うことについて、共用試験(CBT、OSCE)合格等の事前の医学生の評価が条件とされ、また患者等の同意を得た上で許容される行為と考えられている以上、低年次からこれを行う機会を設けることは容易ではない。本学では、低年次から病院見学や高齢者施設体験実習を実施しており、この中で、患者・高齢者とのコミュニケーションを持つ場を確保するとともに、医行為の見学等、段階に応じた経験の機会を持てるよう、関係部署と調整を行っている。低年次からのインターンシップ体験実習の参加募集を引き続き行うとともに、体験実習として許容される項目について関係部署と調整を行っている。

・「early exposure」の体験型臨床実習として医学科1年次に行っている高齢者施設実習は、コロナ禍以降実施不可能の状態が続いたが、感染状況を慎重に確認し、マスク・ガウン等の十分な感染対策を講じ、令和6年度から再開した。施設における学生の実習状況について、チェックリスト形式でデータ化し、高齢者や多職種とのコミュニケーションや、介護等での患者との接触、プロフェッショナリズムに関する学修機会が確保されていることが示された。

・低年次からのインターンシップ体験実習については、コロナ禍で中止を余儀なくされていたが令和5年度から再開している。令和6年度は5名の参加があった。

・令和6年度は病院見学や医学生と患者との接触を伴う体験実習については、概ねコロナ前の水準で実施できた。しかし、高齢者施設体験実習など、感染症に対し一段と厳格な対応が求められるものについては受け入れ可能人数の制限など、影響が一部残っているのが現状である。今後の社会情勢の変化により許容される範囲で、低年次から患者と接触する機会を設けることを引き続き検討する。

・2年次においては、令和4年度から継続的に「早期外科体験実習」を実施し、専門教育初年次(2年次)に外科系の全診療科が参加して外科の基本手技を学び、外科への興味・関心を持たせ将来の診療科選択への早期の動機づけ及びマインドセットを行っている。ご猥体は学生にとって最初の患者でもあり、尊厳と感謝の意識を忘れないよう指導しており、プロフェッショナリズムの涵養も図っている。また、卒後研修へのシームレスな移行を目的とし、4～6年次では、複数診療科(消化器・腫瘍外科のほか11診療科)において従来の授業・実習形式に加え、新たにVR、XR等の高度なデジタル教材による指導を開始した。今後、教育効果の深化を図りたい。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-5-1:eYUME 早期外科体験実習のユニット概要《再掲》
- ・資料 2-5-6:令和6年度医学生のための短期見学研修事業《再掲》
- ・資料 2-5-8:高齢者施設体験実習におけるプロフェッショナリズムに関する学修状況《再掲》

## 2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

### 基本的水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための示唆

・垂直的統合教育をさらに推進することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・垂直的統合教育をさらに推進するため、医学教育センター等で、各ユニットにおける基礎系教員と臨床系教員の構成・配置を継続的に検討しており、基礎・臨床が連携した講義やユニット構成を増やしている。

・臨床と病理の垂直統合を推進するため、CPC (Clinico-Pathological Conference: 臨床-病理検討会) に臨床実習で病理診断科をローテート中の学生が参加できるよう、臨床実習プログラムを設計しているほか、学生に広く参加を奨励している。特に、現在はオンラインにより開催していることから、学生に広くアナウンスし、容易に参加できるように工夫している。

・垂直的統合教育の推進として、令和3年度に、2年次カリキュラムの「肉眼解剖学実習」の中に「早期外科体験実習」を配置し、基礎医学授業と臨床医学授業を並行して学修できるカリキュラムを開始し、令和4年度に、本学の正規カリキュラムに組み込んだ。「早期外科体験実習」は、解剖学的知識の習得とともに結紮手技・縫合手技・剥離操作等のベーシックな外科手技を体験させるもので、肉眼解剖学実習において、カダバートレーニング形式で献体を用いた外科手技実習を展開している。令和6年度も引き続き基盤系教員と臨床系教員が共同で学生指導に当たっており、垂直的統合教育を実現している。

・学術的視野をもち、未解決の課題に創造的態で取り組む医師の養成を目指し、最先端の臨床医学研究を紹介する「臨床系特別専門講義」のユニット内に、基盤系講座教員による、基礎研究を専門とする研究医のキャリア形成について紹介する時間を設け、垂直的統合を図る試みを令和4年度に計画した。令和5年度より「臨床系特別専門講義」内に基礎系教員の講義を組み込み、垂直的統合を促している。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-6-1: 基盤系/展開系ユニットにおける臨床系/基礎系教員の参画状況の例
- ・資料 2-6-2: 病理診断科の臨床実習プログラム
- ・資料 2-6-3: eYUME 配信動画 (早期外科教育の動画)
- ・資料 2-6-4: 医学科カリキュラムフローチャート

## 2.7 プログラム管理

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための助言

・教育カリキュラムの立案と実施において責任と権限を持つ委員会に、学生の代表を含むべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和5年度に医学科カリキュラム委員会および医学科教育プログラム評価委員会の規則改正を行い、ともに学生の代表を委員として組織している。令和6年に引き続き、令和7年3月に学生代表を含めた教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会を開催しており、教育カリキュラムの評価と立案を行った。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-7-1: 医学科カリキュラム委員会 委員構成 (役職のみ。氏名は非公開) <<再掲>>
- ・資料 2-7-2: 医学科教育プログラム評価委員会 委員構成 (役職のみ。氏名は非公開)

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・カリキュラム委員会および教育プログラム評価委員会では、関連病院の院長や指導医、他学科の教育担当者など、広い範囲の教育の関係者が参画している。令和6年度に開催したカリキュラム委員会および教育プログラム評価委員会はWeb会議システムで行い、出欠に関する委員の都合に柔軟に対応した。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-7-3: 山口大学医学部医学科カリキュラム委員会規則
- ・資料 2-7-4: 山口大学医学部医学科教育プログラム評価委員会規則

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点 (特色)

- ・卒業生の学修成果習得状況について関連病院へのアンケートが行われ、その情報に基づき教育プログラムの改良が行われたことは評価できる。

##### 改善のための示唆

- ・教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・「地域医療実習」を受け入れている地域の約90の医療施設の指導者に、実習終了後、担当学生に対する評価やディプロマ・ポリシーに対する現時点での達成度に関するアンケートを毎年行っている。アンケートに寄せられた、学生および教育プログラムに関して改善を求める意見を参考に、継続的な改良を行っている。また地域医療実習の実施前に受け入れ施設向けの説明会や受け入れ施設指導医FDを令和6年度も引き続き行っており、指導方法や評価方法に関する質疑応答と意見聴取を行っている。
- ・令和6年度より、1年次の「高齢者施設・病院体験実習」の実習施設の担当者へのアンケート調査を開始した。学生のプロフェッショナリズムやコミュニケーション力の評価のほか、実習に関する意見を幅広く聴取しており、今後の実習プログラムの改良に活用する予定である。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 2-8-1:令和6年度地域医療実習アンケートのまとめ
- ・資料 2-8-2:令和6年度地域医療実習アンケート結果報告書(クリニック向け)
- ・資料 2-8-3:2024年度高齢者施設・病院体験実習施設向けアンケート調査結果

### 3. 学生の評価

領域3における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、「総括的評価の評価(ユニット成績評価の妥当性)」に加え、「形成的評価の評価(ポートフォリオによる面談の実施状況)」の充実を図った。担任制の面談実施率向上に関しては、令和6年度開催の第2回教育プログラム評価委員会での意見を踏まえ、担任制の面談実施率について、教員や講座による差があり、改善に向けて検討を行うことを医学科教育戦略会議へ提言する課題として挙げた。担任制を含めた学生のサポート体制について学内FDで周知し、さらにオンデマンド配信を行うことで周知を徹底した。また、「知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。」との助言を受け、臨床実習中の態度評価として、「アンプロフェッショナルな学生の評価」について、教職員、学生に対して具体例やその評価体制を周知した。さらに、形成的評価の一環として臨床・クラークシップ(臨床実習2・1期6週間)での診療録記載技能評価を行っているところであるが、過去3年間のデータを取りまとめ、学生の学修意欲向上に寄与していることが示された。

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点(特色)

・「山口大学修学支援システム(eYUSDL)」などを用いて学生間の相互評価を行っていることは高く評価できる。

##### 改善のための助言

・知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和3年度教育プログラム評価委員会外部委員から指摘された「担任制の面談実施率が低いことから、教員・学生双方に、担任制の実施方法や主旨・目的の再周知を検討してはどうか」との意見を踏まえ、担任制の面談実施率向上のため、令和4年6月に実施した学内FD(新任教職員オリエンテーション)で、担任制を含めた学生のサポート体制について周知を行った。令和6年度開催の第2回教育プログラム評価委員会においても「医学教育に関するアンケート結果」を踏まえ、担任制の面談実施率について、教員や講座による差があり、改善に向けて検討を行うことを医学科教育戦略会議へ提言する課題として挙げた。

・令和6年9月に新任教職員オリエンテーションを開催し、これまでの内容に加え、新コアカリや共用試験の公的化に対応した学生評価の概要や変更点の確認・周知を行った。

・臨床実習中の態度評価として、「アンプロフェッショナルな学生の評価」について教職員だけでなく、実習前説明会などで学生に対しても具体例やその評価体制を周知した。

・学生の行動規範を策定し、令和6年度に医学科教学委員会、医学科カリキュラム委員会、医学科会議での承認を経て、令和7年度医学科学生要覧に掲載した。令和7年度からは低学年学生に対するアンプロフェッショナル評価も行う予定である。

・学内IR活動で得られた分析データは新任教職員オリエンテーションにて紹介するほか、教育プログラム評価委員会でも報告しており、学外及び学部外を含めた各委員からの評価と意見を得ることで、今後の評価方法およびIR活動の方針の参考にしている。

・引き続きこれらの取り組みについて教職員・学生に周知し、適切に評価が行われるよう運用していく。

・ユニット試験や卒業試験等の評価における利益相反に関する申し合わせを策定し、令和6年度に医学科教学委員会、医学科カリキュラム委員会、医学科会議での承認を経て、令和7年度より運用を開始する予定である。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1-1:アンプロフェッショナルな学生の評価試行入力 教員マニュアル
- ・資料 3-1-2:アンプロフェッショナルな学生 学生周知スライド

- ・資料 3-1-3:eYUME 動画配信サイト(学内FD・研修会等)
- ・資料 3-1-4:医学科教育プログラム評価委員会議事要旨
- ・資料 3-1-5:eYUME 学生専用サイト(プログラム評価委員会の周知)
- ・資料 3-1-6:学生の行動規範《再掲》
- ・資料 3-1-7:山口大学医学部医学科のユニット試験等の評価における利益相反に関する申し合わせ
- ・資料 3-1-8:eYUME 動画配信サイト(学内 IR 活動を公表した新任教職員オリエンテーションの動画)

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和6年度も引き続き学内 FD(新任教職員オリエンテーションや教育主任説明会)を開催し、学内 IR 活動で得られた分析データを公表している。また、その内容はeYUMEの教職員専用サイトでオンデマンド視聴可能としており、教職員内での周知を図っている。
- ・学内 IR 活動で得られた分析データはプログラム評価委員会でも報告し、学生代表や、学外および学部外を含めた各委員からの評価と意見も含め、eYUME上でオンデマンド視聴可能としており、教職員のみならず学生へも開示している。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1-4:医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》
- ・資料 3-1-5:eYUME 学生専用サイト(プログラム評価委員会の周知)《再掲》
- ・資料 3-1-8:eYUME 動画配信サイト(学内 IR 活動を公表した新任教職員オリエンテーションの動画)《再掲》

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム(YU CoB Cus)」による医学科ディプロマ・ポリシーに基づく能力の獲得状況の数値化・可視化システムは、学生の学修意欲の促進につながり、高く評価できる。

#### 改善のための助言

- ・形成的評価と総括的評価を適切な比重で実施すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・形成的評価の一環として、令和2年度より、eYUME上でポートフォリオを開始し、学業・学業外の様々な項目で学生個々の現状を把握した上で、教員が面談を行う取り組みを開始し、令和5年度、6年度も継続して行っている。
- ・技能に関する形成的評価の一環として、令和元年度より臨床・クラークシップ(臨床実習2・1期6週間)での診療録記載技能評価を開始した。これは臨床実習中の医学生の作成した診療録(学生記録)をピア・レビュー評価するものであり、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の「若手研究」として令和5年度まで行った。本研究での学生診療録記載技能向上のための形成的評価の有用性と、学修意欲向上への寄与を学術論文にて報告しており、令和6年度も引き続き同取り組みを行った。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-2-1:学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】
- ・資料 3-2-2:学生ポートフォリオ・シート 確認マニュアル【教員用】
- ・資料 3-2-3:学生診療録ピア・レビュー入力マニュアル【学生用】
- ・資料 3-2-4:学生診療録ピア・レビュー入力マニュアル【教員用】
- ・資料 3-2-5:学生診療録ピア・レビュー教育の有用性に関する学術論文

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・令和4年度はコロナ禍での面談の実施が困難であったこともあり、ポートフォリオに基づく面談実施率が約3割だったため、各委員会等での周知により取り組みを継続・促進している。引き続き担任制の周知を行い、学生に対し時期を得たフィードバックを適切に行うよう取り組みを進めていく。
- ・成績不振やメンタル不調等により進級ができなかった学生については適時学生担当教員が面談を行い、状況の把握とフィードバック、ケアを行うよう努めている。
- ・毎年、学外講師を招聘して学内FDを開催している。令和5年度は、新しいモデル・コア・カリキュラムで求められている医学教育の在り方やOSCEの公的化に伴う注意点等を中心とした学内FDを開催した。令和6年度は、医学教育分野別評価の受審の準備を行うにあたり、最新の医療者教育の在り方、考え方などに関する学内FDを開催した。
- ・学生診療録ピア・レビューでは、評価結果を数日以内に学生に返却し、良い点や改善点など詳細なフィードバックを行っている。学生アンケートでもピア・レビュー評価による学修意欲向上が示されている(学術論文で報告済み)。令和6年も引き続き同取り組みを行った。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 3-2-5:学生診療録ピア・レビュー教育の有用性に関する学術論文《再掲》
- ・資料 3-2-6:令和6年度医学科教員研修会ポスター

## 4. 学生

領域4における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、令和6年度には9月と3月に教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会、3月に医学部学生・教職員教育改善委員会を開催した。

カリキュラム委員会を含め、学生が委員を務める3つの委員会のさらなる充実を進める。

### 4.1 入学方針と入学選抜

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・多彩な入学者選抜方法を導入している。
- 推薦入試Ⅱのみならず、学士編入学試験においても地域枠を設けている。

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度に学士編入学試験開始時から現在までの学士編入学生の入試データと CBT、GPA、卒業試験、国家試験との成績相関や、年代別の成績、卒後初期研修先の山口県内残留率を調査した。今後の学士編入学試験のあり方（継続の是非）を含め、入試方法等の検討を令和6年度も引き続き行った。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-1-1: 学士データのまとめ（入試委員会3月資料）(data not shown)

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための示唆

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

### 4.2 学生の受け入れ

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 4.3 学生のカウンセリングと支援

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・成績不振学生や希望する学生に対し、「特別指導コース」を設け、「学習コーチ」が個別指導を行っていることは評価できる。

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・3年生の基盤系統一試験本試験で不合格となった学生を、担任講座及び自己開発コースの所属講座に連絡し、担任制講座には再試験に向けての指導依頼、自己開発コース所属講座には再試験に向けた勉強への配慮依頼を行っている。

・低学年の留年生や成績不振学生には、学生の意向も踏まえて基盤系教員からメンターを選出し、対応している。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 4-3-1:担任制について(data not shown)

・資料 4-3-2:担任制所属講座等への依頼

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

## 改善状況を示す根拠資料

・なし

## 4.4 学生の参加

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための助言

・使命の策定、教育プログラムの策定、教育プログラムの管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参画し、適切に議論に加わるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和6年度も引き続き、医学部学生・教職員教育改善委員会を開催し、学生からの授業に関する要望や評価を教育プログラムの改善に活用している。  
・教育プログラムや学生活動に関する意見や要望について、学生自治会と医学教育センターとで年1回以上定期的に懇談会を開催している。  
・令和6年度のアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改訂や使命の策定にあたっては、医学科カリキュラム委員会で学生代表が委員として参画し、意見を収集した。特にWeb会議システムを利用することで、学生委員の都合に柔軟に対応し、議長からも学生委員に積極的に発言を促すなど、議論への参画にも十分に配慮して行われた。また学生を対象にパブリックコメントも実施した。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-4-1: 令和6年度 医学部学生・教職員教育改善委員会議事概要
- ・資料 4-4-2: 医学教育センターと学生との懇談会議事メモ
- ・資料 4-4-3: 学生自治会と医学教育センターとの懇談会における意見抜粋 (data not shown)

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・学生自治会と協力して、学生の自主的な活動をサポートしていることは評価できる。

#### 改善のための示唆

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

## 改善状況を示す根拠資料

・なし

## 5. 教員

領域5における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、新たな業績評価制度を構築し、令和2年度の試行後、令和3年度から本格運用を開始した。また、FD研修会への参加率を上げるため、年度に1回のFD参加を義務づけた一方、参加方法についてはeYUMEの動画配信サイトを視聴するe-ラーニング形式でも可として、FD研修会に参加しやすい環境を整えている。また、大学本部とも協働し全学FDも実施した。

新たな業績評価制度は前年度に引き続き令和6年度も提出率100%を達成した。今後は本制度を継続し必要に応じて評価項目の見直し等を行うことで、教育・研究力の向上につなげていく。

新任教員研修会は令和5年度に引き続き、令和6年度も開催した。

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・教員の退職、募集等について「大学院医学系研究科医学専攻の専攻及び領域等に関する検討専門委員会」において将来構想、指針等を定め実施しており、令和6年度は2回開催して継続して募集や選抜方針を検討している。

##### 改善状況を示す根拠資料

・資料 5-1-1: 令和6年度「大学院医学系研究科医学専攻の専攻及び領域等に関する検討専門委員会」議事要旨 (data not shown)

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・「大学院医学系研究科医学専攻の専攻及び領域等に関する検討専門委員会」において示された選抜方針に基づき、医学専攻会議において「教授候補者選考委員会」を設置している。同委員会は基礎医学及び臨床医学教授でバランスよく構成し、10年以上の研究歴を有する准教授、講師、助教及び助手等の委員も加えて、十分な人員と多角的な視点により選抜を実施している。

##### 改善状況を示す根拠資料

・資料 5-1-2: 山口大学大学院医学系研究科医学専攻教授候補者選考実施細則 (data not shown)

### 5.2 教員の活動と能力開発

#### 基本的水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・「教員業績管理システム」を運用し、教員の入力負担を軽減しつつ、教員の活動を質と量の面から評価していることは評価できる。

### 改善のための助言

- ・「大学教育職員活動調査票」の提出率を高め、教育職員の評価をより適切に行うべきである。新規採用教員を含め、教員の研修、能力開発をさらに活性化すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・本法人では、人事給与マネジメント改革を進めることを目的に、文部科学省がとりまとめた「国立大学法人等人事給与マネジメント改革に関するガイドライン(平成31年2月25日)」に基づき、教育研究力の向上に資する魅力ある人事給与マネジメント改革を進めるべく、新たな業績評価制度を構築した。令和2年度の試行を経て令和3年度から本格運用を開始し、その結果を給与等へ反映している。今後は本制度を継続、必要に応じて評価項目を見直す等を行うことで、教育・研究力の向上につなげていくことが肝要である。
- ・医学科主催の様々なFD研修会では、医学教育の改善に関するテーマを取り上げており、多くの教員が参加することでより良い医学教育の実現に繋がると考えている。令和2年度から、医学系(医学系研究科・附属病院・医学部)の全ての大学教育職員に、年度に1回のFD研修会参加を義務づけた一方、参加方法についてはeYUMEの動画配信サイトを視聴するeラーニング形式でも可として、FD研修会に参加しやすい環境を整えた。FD研修会として、令和6年度も昨年度に引き続き、異動の多い臨床系教育職員のため、新任教職員向けに「新任教職員オリエンテーション」を開催した。令和6年度は、医学教育分野別認証評価受審や、臨床実習再編についてなどに対する学内での対応方針について教員に周知するため、5月に学内説明会(兼FD研修会)を開催した。また、令和8年度の医学教育分野別評価受審の準備を行うにあたり、最新の医療者教育の在り方、考え方などを周知するため、学外講師を招聘した講演「医学教育分野別評価と医療者教育」を開催した。また、例年通り12月に「シラバス説明会」を開催した。これらは録画しeYUMEに掲載することで、後日閲覧することを可能としている。これらを含め計7回の医学科FD講習会を開催した。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-2-1:国立大学法人山口大学大学教育職員等業績評価実施要項 (data not shown)
- ・資料 5-2-2:国立大学法人山口大学大学教育職員等業績評価実施要項の運用について (data not shown)
- ・資料 5-2-3:eYUME 教員専用サイト(FD 参加のお願い)
- ・資料 3-1-3:eYUME 動画配信サイト(学内FD・研修会等)《再掲》

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 6. 教育資源

領域6における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、希望する学生について、適切な指導・評価体制が確保できるという条件下で、海外での臨床実習を推奨している。平成30年度に1名の実績（ニューキャッスル大学）があり、令和元年度も1名の申請者があった。令和2年度及び3年度においては、コロナ禍の影響で海外への渡航が困難な状況にあったが、令和4年度は、1名の実績（ニューキャッスル大学）があった。令和5年度、令和6年度も継続して申請者があり、引き続き積極的な参加を推進していく。

令和6年度の自己開発コースでは6名（イギリス2名、スイス2名、アメリカ1名、カンボジア1名）の学生を派遣し海外交流の促進を図った。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・学生のための研究施設「SMAC(The Student Medical Academia Center)」を設置し、教員を配置して研究志向の高い学生に研究参加の機会を与え、多くの学生が活用していることは高く評価できる。  
自主学習や、少人数グループ学修に使用できる部屋を学生に十分提供していることは評価できる。学生が医学部図書館を24時間利用できることは評価できる。

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・引き続き、SMACラボを積極的に運用しており、令和5年度は29名、令和6年度は20名の学生が利用登録を行った。  
・令和4年度学部長のリーダーシップのもと医学教育を推進する目的で「学生医学アカデミア推進室」を立ち上げ、専任教員2名を配置して学生の教育研究活動の推進を行った。令和5年度は2名の学生、令和6年度は1名の学生を受け入れ、継続して研究活動支援を実施した。  
・国家試験の勉強をグループで集中的に行う施設を設置して学生の修学を支援している。令和5年度に学生の要望を踏まえセキュリティ設備を新設し、土日及び平日夜間の利用時間を拡大することで学生の学修環境の向上を行った。令和6年度も引き続き、利用時間の拡大を継続し、学生の修学支援を行った。

##### 改善状況を示す根拠資料

・資料 6-1-1:学生医学アカデミア推進室関連図  
・資料 6-1-2:国家試験勉強のための勉強部屋の利用について

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和5年度に部活動用グラウンドに隣接した土地に住宅地が建設されることとなったことに伴い、近隣住人への影響及び学生の課外活動の促進のためテニスコート脇フェンスを新たに設置した。  
・雨天時の転倒予防のために、階段の滑り止め工事を行った。  
・課外活動で使用する施設の老朽化に伴い、今後の改修に向け、予算要求を重点的に行った。

- ・第3講義室(講義棟C)前のラウンジを新たに学修、ミーティング、休憩ができるスペースに改修し学修環境の向上を図った。
- ・医心館2階の談話室、多目的室を新たにフリースペースとして整備し、さらなる学修環境の向上を図った。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を利用して、学生が経験した疾患分類を把握するシステムを構築していることは評価できる。
- ・「臨床実習2」で選択できる地域基幹病院と、「地域医療実習」で選択できる学外の病院やクリニックが、十分に確保されていることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・「early exposure」の体験型臨床実習として医学科1年次に行っている高齢者施設実習は、コロナ禍以降実施不可能の状態が続いたが、感染状況を慎重に確認し、マスク・ガウン等の十分な感染対策を講じ、令和6年度から再開した。施設における学生の実習状況について、チェックリスト形式でデータ化し、高齢者や多職種とのコミュニケーションやプロフェッショナリズムに関する学修機会が確保されていることが示された。
- ・令和6年度も学生受け入れ可能な「臨床実習2」の地域基幹病院と、「地域医療実習」の学外の病院やクリニックを各診療科から募り、内科系・外科系・遠隔地等の十分な施設数を確保できた。
- ・臨床実習における学生の学修成果として、EPA(臨床実習で医学生として信頼され任される役割)、基本的臨床手技(臨床実習期間中に経験した臨床手技)、臨床推論(実習で経験した症例や臨床推論を学んだ疾患名を記録)の33項目について、電子シラバス上で学生に入力させる取り組みを継続して行っている。令和6年度も多くの学修項目で到達度の向上がみられ、common diseaseをはじめとして多くの症候と疾患の経験が得られていることが示された。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 6-2-1:地域医療実習の実習先一覧、依頼文書
- ・資料 6-2-2:臨床実習の到達目標のオンライン自己評価集計過去3年間(2022年度~2024年度)の比較
- ・資料 2-5-8:高齢者施設体験実習におけるプロフェッショナリズムに関する学修状況<<再掲>>

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度文部科学省高度医療人材養成事業(医師養成課程充実のための教育環境整備)に採択され、臨床実習の充実を図るため、超音波診断装置、外視鏡、レーザー治療装置、自動免疫染色装置等の最先端医療機器を整備し、最先端医療に関する学修を、配属先診療科のプログラムへ系統的に組み入れた。

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 6.3 情報通信技術

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

WiFi 等のネット環境向上に向けて、令和3年度よりアンケートを開始した。学部長のリーダーシップのもと、アクセスポイント分析やケーブル等の仕様について関係教員と協議を行いWiFi 設備増強方針を定め順次改修を行った。令和5年度に実施した学生アンケートでは、各施設の不具合頻度が経年的に減少しており、ネット環境の向上を実現することができた。

しかし未だ不十分なネットアクセス環境の場所も存在するので、今後も調査を行い予算措置の可能な範囲で改善していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 6-3-1:WiFi 環境整備改善結果報告書

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 6.4 医学研究と学識

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・学部・大学院教育を一貫した「高度学術医育成コース(SCEA/AMRA)」を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。

##### 改善のための助言

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・引き続き、SCEA/AMRA コースを積極的に運用しており、令和4年度は SCEA/AMRA: 11/15 名、計 26 名、令和5年度はSCEA/AMRA:6/18 名、計 24 名、令和6年度はSCEA/AMRA:5/14 名、計 19 名の登録者があった。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 6-4-1:高度学術医育成コース履修状況

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 6.5 教育専門家

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・医学教育センターに5名の教育専門家が配置され、カリキュラム開発、教育技法、および評価方法の開発をはじめ、医学部教育の改革に貢献していることは評価できる。

##### 改善のための助言

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学教育学会をはじめとする学会にも演題を発表し、医学教育論文も定期的に投稿している。（令和6年度学会発表2件）  
・他学部主催の教育関連 FD や医学教育学会、医学教育共同利用拠点岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）主催のワークショップ等にも積極的に参加している。  
・第42回「国内医科大学視察と討論の会」（富山）に参加した。  
・第49回医学教育者のためのワークショップ（富士研）に参加した。

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 6.6 教育の交流

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

#### 改善のための助言

・「自己開発コース」のみならず、臨床実習においても海外交流をさらに進めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・本学では、希望する学生について、適切な指導・評価体制が確保できるという条件下で、海外での臨床実習を推奨している。令和4年度は、1名の実績(ニューキャッスル大学)があった。令和5年度、令和6年度も継続して申請者がおり、引き続き海外交流を推進していく。

・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されたため、自己開発コースで8名(アメリカ4名、イギリス3名、ドイツ1名)の学生を派遣し海外交流の促進を図った。また、医学科短期研究プログラム留学生として、バース大学(イギリス)2名、ケンブリッジ大学(イギリス)1名を受入れ研究交流を促進した。

・令和6年度は、新たにローザンヌ大学(スイス)と部局間交流協定を締結し、自己開発コースで2名の学生を派遣した。医学科短期研究プログラム留学生として、バース大学(イギリス)3名、ケンブリッジ大学(イギリス)1名を受け入れ研究交流を加速させた。

また、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に関連して共同獣医学部の学生と共にナイロビ大学(ケニア)に3名の医学部生を派遣し、ヒト、動物、環境の健康(One Health)に関する問題のうち、特に重要な「感染症」に焦点を絞り学生の相互交流によりグローバルな視点からの学びを促進した。

・令和6年度は、医学科短期臨床実習プログラム留学生として、ウダヤナ大学(インドネシア)から6名、マヒドン大学(タイ)から2名、ナイロビ大学(ケニア)から2名を受け入れた。また、医学部のサークルである国際医療研究会主催で交流会が開催され、留学生による各大学の紹介やゲーム等を行い、学生間交流を推進した。

・令和5年度に、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部と多職種連携プログラムの連携協定を締結(R5.12.25)した。令和6年度より、従前医学科と保健学科(看護学専攻)の学生に対して実施していた「医療環境論」を保健学科(検査技術科学専攻)の学生及び山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部の学生を加えた合同授業として実施した。各分野の講義および多学科混成のグループワークにより、多職種連携教育を推進した。

・山口県立総合医療センター主催の県内各地の医療機関で短期実習を行う「やまぐち地域医療セミナー」が開催され、令和6年度は21名の学生が参加をした。

#### 改善状況を示す根拠資料

・資料 2-5-2:「やまぐち地域医療セミナー 2024」開催のご案内<<再掲>>

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・なし

### 改善のための示唆

・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 6-6-1:臨床実習のための国外留学サポート
- ・資料 2-5-5:令和6年度 医療環境論(4学科合同) 授業概要《再掲》

## 7. プログラム評価

領域7における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、引き続き、IRと教育プログラム評価委員会について他大学の現状を調べつつ、適正な在り方を模索しているところである。

その中で、令和4年度は、教育の充実、改善及び調査研究等のための資料を得ることを目的として、卒業3年目の卒業生を対象にアンケートを行った。令和6年度も引き続き、入試や在学中の学生の成績と、国家試験や卒業進路の関連を分析しており、教育プログラムの改善に役立つIRデータを収集している。

### 7.1 プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・2000年度より医学教育の評価を開始し、2018年9月に医学科教育プログラム評価委員会を設置し、プログラムのモニタと評価を開始した。

##### 改善のための助言

- ・教育プログラムの評価を実質化し、カリキュラムとその主な構成要素について教育プログラムを評価すべきである。
- ・学生の進歩について、教育プログラムを評価すべきである。
- ・教育プログラムの評価に基づいて課題を特定し、対応すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和4年度より、医学科会議における教育系委員会の組織再編を行い、各会議、委員会の機能を明瞭化した。また医学科教育企画会議の名称を医学科教育戦略会議に変更し、司令塔機能の強化を行った。令和6年度には、教育プログラムの実務を担う委員会である医学科教務委員会と医学科学生委員会の組織改革を行い、医学科教学委員会として一本化した。これにより、教学における執行部の責任を明確化し教務及び学生関連事項を一体的に扱うことが可能となった。

・IRと医学科教育プログラム評価委員会については、他大学が開催するIRの研修会に積極的に参加する等、他大学の現状を調べつつ、適正な在り方を模索しているところである。IRの基になるデータの多くは、修学支援システム(eYUSDL)、eYUMEのDBを活用しており、eYUMEに関しては、学生同意の上で、講義評価、ユニット評価、臨床実習評価、臨床実習マイルストーン評価、ポートフォリオ、学生診療録ピア・レビュー等のデータを抽出した上で加工・可視化し、医学科教学委員会、医学教育プログラム評価委員会や医学科会議等にフィードバックしている。

・学生の進歩については、令和2年度より、eYUME上でのポートフォリオ入力を開始し、また令和3年度からはポートフォリオの対象学年を全学年に拡大し(それまでは2年次～5年次)、各学生の年次毎のデータが蓄積できるようにシステムを改修している。教員は学業・学業外の様々な項目で学生個々の現状と経年的変化を収集できており、教育プログラム評価に活用している。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-1-1:eYUMEを使用したIR(臨床実習マイルストーン)
- ・資料 7-1-2:eYUMEを使用したIR(ユニット・講義評価)
- ・資料 7-1-3:eYUME画面(医学教育に関するアンケート結果の周知)
- ・資料 3-2-1:学生ポートフォリオ・シート入力マニュアル【学生用】《再掲》
- ・資料 3-2-2:学生ポートフォリオ・シート確認マニュアル【教員用】《再掲》
- ・資料 7-1-4:山口大学医学部医学科教学委員会規則

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

### 改善のための示唆

・教育活動とそれが置かれた状況について、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・教育プログラムはかねてより学生代表も委員として組織して定期的を開催しており、令和6年度も医学科教育プログラム評価委員会を引き続き開催してIR資料の提示とともに学生代表委員や広い教育の関係者も含めて多方面からの意見を聴取した。同委員会は以前よりアーカイブ動画にしてeYUME に掲載し、広く学生と教員に閲覧を促している。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1-4: 令和6年度医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》
- ・資料 3-1-5: eYUME 学生専用サイト(プログラム評価委員会の周知)《再掲》

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

・教員に対しては 2019 年7月に、学生には 2018 年7月に教育プログラムについてのアンケート調査を行っている。

#### 改善のための助言

・単発のアンケート調査に終わらず、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学教育センターIR部門で定例的、系統的にIR活動を実施している。令和6年度も積極的に行い、「入試IR」、「CBT・卒試・国家試験 IR」、「eYUME を使用したIR」としてまとめた。また、医学科教学委員会や入試委員会等にて各IRデータを公開し、入試や教育プログラム検討の際の参考資料としている。また、「eYUME を使用したIR」として、学生による講義評価・ユニット評価を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業が多く、講義評価・ユニット評価のアンケート実施が困難であったが、令和4年度は同アンケートを概ね実施でき、集計結果を可視化することができた。令和5年度は完全対面形式での授業に戻ったことで、コロナ禍以前と同様のアンケートが実施できた。令和6年度も引き続きアンケートを実施しており、コロナ前・禍中・後の比較を含め、アンケート結果を各教員にフィードバックし、引き続き授業内容の改善につなげた。その他、医学教育に関するアンケートはeYUME にて学生、教員共に閲覧可能であり、フィードバックを系統的に求める体制を整えている。

・令和4年度以降は、教育の充実、改善及び調査研究等のための資料を得ることを目的として、卒業3年目の卒業生を対象にアンケートを行った。その結果を医学科教学委員会等にフィードバックし、教育プログラムの改善に活用している。

・令和3年度から正規カリキュラムに組み込んだ「早期外科体験実習」について、実習終了後にアンケートを行い、学生からのフィードバックを得ている。令和6年度もアンケート回答をもとに、次年度の計画を練り直し、実習内容の充実化を図った。

・令和6年度は、6年次の「地域医療実習」の実習医療機関(指導医)を対象にアンケート調査を引き続き行ったほか、新たに1年次の「高齢者施設・病院体験実習」の教員(実習担当者)を対象としたアンケート調査を開始した。1年生に対するアンケートで、他の項目に比べて、知識や実習への積極性について改善が望まれる意見が多いことから、令和7年度以降、実習前のオリエンテーションでの基本的知識の教授のほか、実習チェックリストの周知による学修の促進など、実習の充実化に向けた取り組みを行う予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-2-1:入試 IR(data not shown)
- ・資料 7-2-2:CBT・卒試・国家試験 IR(data not shown)
- ・資料 7-1-1:eYUME を使用した IR(臨床実習マイルストーン)《再掲》
- ・資料 7-1-2:eYUME を使用した IR(ユニット・講義評価)《再掲》
- ・資料 7-1-3:eYUME 画面(医学教育に関するアンケート結果の周知)《再掲》
- ・資料 7-2-3:卒業生アンケート(概要)
- ・資料 7-2-4:卒業生アンケート(結果)
- ・資料 7-2-5:令和6年度早期外科体験実習後の学生アンケート
- ・資料 2-8-2:R6地域医療実習アンケート結果報告書(クリニック向け)《再掲》
- ・資料 2-8-3:2024 年度高齢者施設・病院体験実習施設向けアンケート調査結果《再掲》

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・教員と学生からのフィードバックを利用して、確実にプログラム開発を行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学教育プログラム評価委員会および医学科カリキュラム委員会には学生の代表や広く教育の関係者を委員として選出している。令和6年度の両委員会においても各委員の積極的な参加と意見聴取を図った。両委員会からの医学科教育戦略会議の提言にはこれらの意見が盛り込まれている。
- ・令和3年11月に開催した教育プログラム評価委員会において外部委員から指摘された「担任制の面談実施率が低いことから、教員・学生双方に、担任制の実施方法や主旨・目的の再周知を検討してはどうか」との意見について、令和3年度の面談実績は3割程度であったため、担任制の面談実施率向上のため、令和4年6月に実施した学内 FD(新任教職員オリエンテーション)で、担任制を含めた学生のサポート体制について周知を行った。しかし、以後も実施率の改善は十分でなく、更に周知を徹底する必要がある。その一環として医学教育プログラム評価委員会、医学科会議や基礎教授懇談会等を通じて担任制の実質化の周知、担任制の在り方等について引き続き議論を継続している。
- ・入口戦略として入試 IR、出口戦略としてCBT・卒試・国家試験の IR を実施し、広く確実に教育プログラムの改善を行っている。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-2-1:入試 IR(data not shown)《再掲》
- ・資料 7-2-2:CBT・卒試・国家試験 IR(data not shown)《再掲》
- ・資料 7-2-6:教育プログラム評価委員会、カリキュラム委員会 議事要旨、医学科教育戦略会議への提言

## 7.3 学生と卒業生の実績

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和4年度からは、教育の充実、改善及び調査研究等のための資料を得ることを目的として、卒後3年

目の卒業生を対象にアンケートを継続して行っている。その結果を医学科教学委員会等にフィードバックし、教育プログラムの改善に活用している。調査項目に、就業状況、満足度、知識・能力到達度、教育や学生生活における経験等の満足度、知識・能力到達度等の分析を行っている。その中で、医学部において大学での学修事項が将来のキャリア形成に直結していることが示されている。

・入試や在学中の学生の成績と、国家試験や卒後進路の関連の解析を続けているが、調査項目の変更の必要性について検討を引き続き行った。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-2-3: 卒業生アンケート(概要)《再掲》
- ・資料 7-2-4: 卒業生アンケート(結果)《再掲》

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

・学生を取り巻く社会的、経済的、文化的環境などの背景と状況に関して、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和3年度に、eYUME のポートフォリオシステムを改修し、学生の出身高校、入試枠、留年歴、講義への出席状況等を担任教員が把握した上で面談ができるようになったため、学生個々を取り巻く社会的、経済的、文化的環境などの背景と状況等を踏まえた上でのフィードバックを行うことが可能となった。

・令和4年度は、教育の充実、改善及び調査研究等のための資料を得ることを目的として、卒後3年目の卒業生を対象にアンケートを行った。性別、年齢、居住地、入試方法、志望順位、卒業満足度等の背景についても調査している。

・様々な背景を持つ学生が、卒後のキャリア形成に対してどのような考えを持っているかを把握し、医学教育改善及びカリキュラム改革に活用することを目的とし、キャリア形成に関するアンケートを実施することとした。令和4年度は医学教育センターと学務課が共同でアンケートを作成し、令和5年度に実施し、その結果をもとに改善策を検討している。

・将来本学での特別枠(山口県出身で成績優秀な学生を確保する推薦入試枠で山口県からの奨学金の貸与がある)が減員となる可能性が高いことを受けて、地域枠(山口県出身で成績優秀な学生を確保する推薦入試枠で奨学金の貸与はなし)の増員をせざるを得ない状況であるが、地域枠の顕著な増員を行うことで、全国からの優秀な学生の獲得が妨げられるとの懸念がある。そこで、地域枠の増員数に応じて、山口大学入局者がどのくらい変動するかのシミュレーションを、令和4年度に医学教育センターで行い、入試委員会及び教育戦略会議にて審議のうえ、医学科会議にて報告した。今後、さらなる協議を重ね、入試枠の決定につなげる予定である。

・県内医師の確保のため、特別枠の維持は重要な課題である。山口県奨学金制度について見直しを提言するための資料作成として、医学教育センターにおいて「山口県医師修学資金に関するアンケート調査」を実施した。山口県医師修学資金貸与者1～6年生を対象とし、アルバイトの有無や親からの仕送り金額、親との同居有無といった学生を取り巻く社会的、経済的、文化的環境などの背景因子に加え、奨学金の必要度、最低限必要な金額に関して問うたところ、「現状の貸与金額よりも少額でも良い」と考えている学生が6～8割を占めることが明らかとなった。本調査結果について医学教育センター会議で検討を行った。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-2-1: 学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】《再掲》
- ・資料 3-2-2: 学生ポートフォリオ・シート 確認マニュアル【教員用】《再掲》
- ・資料 7-2-3: 卒業生アンケート(概要)《再掲》
- ・資料 7-2-4: 卒業生アンケート(結果)《再掲》

- ・資料 7-3-1: 医学部医学科キャリア形成に関するアンケート
- ・資料 7-3-2: 医学科会議報告資料(入試カテゴリーの変動と入局シミュレーション) (data not shown)
- ・資料 7-3-3: 山口県医師修学資金に関するアンケート調査結果(data not shown)

## 7.4 教育の関係者の関与

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・医学科教育プログラム評価委員会に、教員をはじめ、学生、事務職員が正式な委員として参加している。

#### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点 (特色)

- ・2018年11月に、58の山口大学医学部関連病院に山口大学医学部卒業生のディプロマ・ポリシー達成度をアンケート調査している。

#### 改善のための示唆

- ・広い範囲の教育の関係者に、ディプロマ・ポリシーの修得状況だけでなく、教育カリキュラム全体に対するフィードバックを求めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・6年生のユニット「地域医療実習」を受け入れている地域の約90の医療施設の指導者に、実習終了後、担当学生に対する評価や現時点でのディプロマ・ポリシー到達度に関するアンケート調査を令和6年度も継続して行っており、その中で、山口大学の医学教育に対するご意見、希望等の自由記載欄を設けている。その回答結果については、医学教育センターIR部門で分析しつつ、eYUMEに掲載し、広くフィードバックを行っている。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-8-1: 令和6年度地域医療実習アンケートのまとめ《再掲》
- ・資料 2-8-2: 令和6年度地域医療実習アンケート結果報告書(クリニック向け)《再掲》

## 8. 統轄および管理運営

領域8における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、引き続き、学生に関係のある重要な議事要旨や規則については、eYUME で公開しているところである。

これらの議事要旨等を広く学生に閲覧を促し、教育プログラムの改善に多くの学生が参画することや、大学予算や医学部予算が大変危機的な状況にあるなか、引き続き教育に支障がないように予算確保に努めていくことが今後の課題といえる。

### 8.1 統轄

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

##### 改善状況を示す根拠資料

・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・学生自治会が学生の代表として、教学関係の委員会組織の構成員になっていることは評価できる。

##### 改善のための示唆

・統轄業務とその決定事項の透明性を確保するために、教育関係の規則や議事録を適宜学生にも公開することが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・eYUME の学生専用サイトに、学生が委員として参画しているカリキュラム委員会、教育プログラム評価委員会、学生・教職員教育改善委員会について、平成30年度以降の議事要旨及び関連規則等を掲載し、広く学生に周知している。また医学科会議の議事録公開については、医学科会議にオブザーバー出席している准講会や助教会の代表が、各々の構成員に伝達している。

・医学教育分野の最新かつ重要な情報を「医学教育センターニュース」にまとめ、eYUME に掲載し、学生・教職員に幅広く公開・周知している（令和6年度末で vol.61まで発刊）。

・学生自治会役員と医学教育センターの懇談会を定期的に開催しており、学生アンケートの結果等を元に、本音ベースで開催している。令和6年度も、同懇談会において、教育プログラムに対する学生側の意見や課外施設の改修要望を聴取し、可能なところから対応するよう努めている。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1-4:医学科教育プログラム評価委員会議事要旨《再掲》
- ・資料 3-1-5:eYUME 学生専用サイト(プログラム評価委員会の周知)《再掲》
- ・資料 8-1-1:eYUME 学生専用サイト(議事要旨及び関連規則の掲載)
- ・資料 8-1-2:医学教育センターニュース

### 8.2 教学のリーダーシップ

## **基本的水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

・なし

### **改善のための助言**

・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・なし

### **改善状況を示す根拠資料**

・なし

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

・なし

### **改善のための示唆**

・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

・令和4年度より、学科長のリーダーシップのもと医学科会議のもとに医学科教育の関する戦略的な方針や方策等の企画、立案等を行う新たな体制整備として「医学科教育戦略会議」を整備し、統括業務及び方針決定を行う委員会の明確化を図った。

・教学における執行部の責任を明確化し教務及び学生関連事項を一体的に扱う目的で、令和6年度より、医学科長を委員長とし、副委員長として教務担当教授2名、学生担当教授2名に、基盤系、臨床系の各教授委員を1名ずつ、さらに准講会委員1名、助教会1名、学務課長を加えた「医学科教学委員会」として新たに組織改革を行った。この委員会を組織する事により、従前は医学科教務委員会と医学科学生委員会の連携が適時必要であったが、これらの委員会を統合することにより迅速に問題点を共有し、対応することが可能になった。

・教学における執行部の評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うべく、医学科長、教学委員会副委員長(教務、学生正担当各1名)、医学教育センター長、学務課長からなる教学のリーダーシップに関する意見交換会を開催し、医学科執行部の評価を行っている。

・公的化された OSCE に関連して、試験室及び試験設備及び認定評価者講習会出席に係る旅費等の費用について学部長及び学科長がその必要性を検討のうえ、予算配分を実施している。

### **改善状況を示す根拠資料**

・なし

## **8.3 教育予算と資源配分**

## **基本的水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

・なし

### **改善のための助言**

・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学科教育予算が縮小してきており、予算の効率的な執行や運用について、学部長、医学教育センター及び学務課による個別各論で議論を重ね、教育に支障がないようにしている。
- ・公的化された共用試験OSCE に関連して、試験室及び試験設備及び認定評価者講習会出席に係る旅費等の費用について学部長及び学科長がその必要性を検討のうえ、予算配分を実施している。関連予算の確保は依然厳しい状況であるが、引き続き予算の獲得に努めている。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

### 8.4 事務と運営

#### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・医学教育センターを設置し、教育プログラムと関連の活動を支援している。

#### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学部と大学院のシームレスな教育体制構築を支援するため、従前学部と大学院と別々であった事務組織を1つに統合し、実際の運用を令和6年7月から本格的に開始した。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

#### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・医学教育関連の事務職員の職務分担と異動に配慮し、業務が円滑に引き継がれるように配慮している。

#### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・事務職員（常勤）は、配属部署の上長と相談して組織目標に応じた個人目標を各年度設定しており、所

属長（課長）との年2回の面談を通じて当該目標の進捗や業務履行状況を共有し、必要に応じて指導助言を行い業務運営の検証を行っている

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

### 8.5 保健医療部門との交流

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・山口県や地域の保健医療機関との連携が構築されている。

##### 改善のための助言

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

・なし

##### 改善のための示唆

・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和元年度より山口県と協働して「やまぐちの未来を創るフロントランナー育成事業（地域医療探究セミナー）」を実施し、山口県の課題である地域医療の充実や人口減少の改善等に向け将来の山口県を担う人材育成を図っており、令和6年度も計2日に渡って開催した。

・医学部附属病院と山口県立総合医療センターは、医療を支える多職種の人材の資質向上や研修・教育体制の充実に関する連携協定を締結（R5.12.13）し、両者が一層の対話を重ね地域医療の発展に寄与する医療人材の育成を引き続き進めている。

#### 改善状況を示す根拠資料

・なし

## 9. 継続的改良

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・若手医師確保の問題意識を共有し、現状分析を実施している。

#### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・山口県内への若手医師定着のための現状分析を継続して行っており、入試臨時増員枠の縮小の流れも踏まえ、県内医療維持のための入学定員等についてある一定の分析結果を元に引き続き検討を行っている。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-3-2: 医学科会議報告資料(入試カテゴリーの変動と入局シミュレーション)《再掲》

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・評価せず

#### 改善のための示唆

- ・評価せず

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし